

目標とする指標

計画期間における施設整備や事業経営に関する指標の目標は以下のとおりです。

区 分	指 標	説 明	平成26年度	平成30年度	平成34年度	令和3年度 実績	達成 状況
安心・安全	塩素臭から見たおいしい水達成率（％）	残留塩素濃度から見た、管理目標達成率（0.4ミリグラム/リットル以下）	75.0	100.0	100.0	100.0	○
	地下水率（％）	水源、利用水量のうち地下水の割合。	95.0	96.0	97.0	98.4	○
安定・強靱	有収率（％）	年間有収水量を年間配水量で割ったもの。なお、有収水量にはメーター不感水量 ㎥考慮している。	90.1	91.0	92.0	92.4	○
	配水池貯留能力（日）	一日平均配水量の何日分が配水池などで貯留可能であるかを表しており、給水に対する安全性、災害・事故等に対する危機対応性を示す。	0.85	0.85	0.87	0.83	×
	給水拠点密度（箇所/km ² ）	給水区域当りの拠点数であり、緊急時の利用しやすさを表している。	8.9	11.1	13.4	16.4	○
	配水池耐震施設率（％）	耐震対策の施されている配水池容量の割合。	46.1	46.1	54.7	49.7	△
	管路の耐震化率【全線】（％）	管路総延長のうち耐震管の占める割合。	20.0	24.6	29.2	34.2	○
	管路の耐震化率【幹線】（％）	幹線管路のうち耐震管の占める割合。	17.4	18.4	19.4	25.9	○
環境・持続	経営資本営業利益率（％）	経営成績に対する総合的な指標であり、投下した経営資本と営業利益の関係を表す指標であり、指標は高いほど良い。	2.9	1.6	1.4	1.4	○
	経常収支比率（％）	収益性を見る最も代表的な指標で、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表す。	133.0	114.9	110.9	126.7	○
	給水収益に対する企業債残高の割合（％）	給水収益に対する企業債残高の割合を示しており、企業債残高の規模と経営への影響を分析するための指標。	221.8	282.5	259.1	236.7	○
	給水原価（円/m ³ ）	有収水量 1m ³ 当りについて、どれだけの費用がかかっているかを表すもの。	154.3	180.5	187.0	152.1	○
	水道業務経験年数度（年/人）	業務は経験によってその遂行能力にも差が出るので、組織全体とすれば十分経験を積んだ職員がいることが望ましい。	4.5	6.0	7.0	5.1	×
	配水量1立法メートル当たり消費エネルギー（MJ/m ³ ）	全施設での総エネルギー消費量を年間配水量で割ったもの。	1.03	1.03	1.03	1.01	○